

魅力ある学校づくり協議会(板橋第九小・ 中根橋小・板橋第一小) ニュース

第8号

発行日：平成 27 年 10 月 13 日
開催日：平成 27 年 9 月 28 日
発 行：板橋区教育委員会事務局
新しい学校づくり課
学校配置調整担当課長
電話 3579-2090

第 8 回協議会内容

第 8 回協議会は、板橋区教育委員会中川教育長が出席して開催しました。協議会では、事務局からの報告事項のほか、前回実施した意見交換を踏まえて更に集約した「魅力ある学校づくり協議会(板橋第九小・中根橋小・板橋第一小)における基本的な考え方」(事務局案)に対してご意見等をいただきました。

1.事務局からの報告事項について

板橋第九小 PTA の皆様の要請をうけて、協議会での協議経過及び事務局案である基本的な考え方の説明を 9 月 19 日の土曜日に板橋第九小の保護者の方々に行いました。当日の主な意見として「期限を設けて早急に決定して学校の統廃合をするのでは税金の無駄遣いである」「板橋第九小は全校児童がそれぞれ名前を知っています。このような素晴らしい学校が他にありますか」「協議会ニュースを持ち帰ってきますが、見たくないと言っています。この状態を長引かせるのは忍びないので早急に結論を出してください。」「今回の件が無ければ、真剣に子どものことを考えることはなかったと思います。それを考えるととても良い機会だったように思います。」等の意見がありました。

板橋区議会に「板橋第九小は、小規模校として良い学校なので廃校しないでほしい」「学区制を徹底することで解決できるのではないか」といった内容の陳情が出され、9 月 28 日の文教児童委員会で審議が行われました。陳情については、委員会で審議の後、採択・不採択・継続となりますが、今回は、継続となりました。

8 月 31 日に協議した内容について教育委員会へ報告を行いました。教育委員からは、「子ども達のことを第一で考えるべきではないか」「これから入学する子ども達についても同様である」「中根橋小の校地について話題になったようだが、誤解のないように説明してほしい」といった意見がありました。

2.魅力ある学校づくり協議会(板橋第九小・中根橋小・板橋第一小)における基本的な考え方について(事務局案)

今後の方向性(事務局案)を示していくにあたっては、児童やその保護者の方々の心情に配慮しながら、教育委員会が責任を持って意見集約に努め、これからの子ども達の教育環境を整える事を第一に考えていきます。

- 1 板橋第九小学校は、学校としての活力(児童・生徒数、教員体制、学校行事を行う際の組織力など)があるうちに周辺校と統合し、板橋区の学校の適正規模及び適正配置を確保していく。
- 2 統合校・統合方式は、歴史的経緯や地域の状況等に基づき決定する。
- 3 統合時期については、交流事業の実施や統合に向けた準備にかかる期間を想定しながら、複式学級や児童数が極端に少ない学年が出現しないように配慮する。
- 4 統合校と統合時期をはじめとした検討事項については、教育委員会事務局が統合シミュレーションや資料を提示しながら、本協議会で検討し決定していく。

《統合にあたっての留意事項》

- 1 学校統合後も児童が安心して通学し学校生活が送れるように、交流事業やイベントを積極的に実施し、児童同士の交流を深め、円滑な統合が出来るように準備していく。

- 2 統合にあたっては、児童・保護者のことを第一に考え、児童が落ち着いた状況で学校生活を送れるように、人的措置を行う等児童の心のケアを図っていく。
- 3 学校統合の際には、通学している児童の希望を尊重し、統合校以外も含め、原則隣接した学校に通学できるように配慮する。
- 4 学校統合後に新たに設定される通学区域については、今後の児童推計、通学路の安全性、町会や自治会の区域及び青少年健全育成地区委員会の区域に配慮する。また、一定期間は、これから入学を予定している児童についても上記3と同様の配慮を行う。
- 5 学校統合後の跡地の活用については、地域の活性化や防災機能の向上等地域に資するよう、地域の意見をまとめ意見書に反映していく。
- 6 統合後の学校については、学校の伝統や歴史を保存するように努める。
- 7 今後、本協議会では、この「今後の方向性（事務局案）」に基づき、教育環境を充実させるため、統合に向けての具体的な方策を意見書として取りまとめる。教育委員会は、責任を持って協議会を運営し、意見集約に努め、責任と権限に基づき、意見書を尊重して方針を決定していく。
- 8 今回の協議会で出された協議内容や協議結果（意見書）については、今後板橋区で同様の協議会が設置された場合、また学校の適正規模・適正配置に関する協議を行う場合にモデルケースとして活用する。

3.意見交換

委員：それぞれの学校を思う気持ちは、一緒だと良く分かりました。私としては、ある程度学校を選ぶことが出来る制度は、必要だと思いますが、色々問題が生じている現実もあります。その問題が何なのか、考えていく必要があります、そのためにこの協議会があるのではないのでしょうか。過去の協議会の中で、板橋第一小の委員の方が、是非自分達の学校に来てほしいとのご発言ありました。このような発言が自然にできる板橋第一小はモデル校といえるのではないのでしょうか。この協議会の中で、3校の学校の子ども達に分け隔てなく教育を受ける環境を整えていく必要があります、板橋第一小が自分達の学校に来てほしいといった発言は、解決に向けた発言だと思います。

委員：これまで板橋第九小は何の問題もない、歴史のある伝統校なので、無くす必要はないと話してきました。先ほどもありましたが、これからの教育現場において何が起きるか分かりません。できれば、このまま板橋第九小を残してほしいとの気持ちに変わりはありませんが、数年先には統廃合することも考えていく必要があるのかもしれない。

委員：子ども達のことを第一に考えて心のフォローをお願いしたいと思います。留意事項の中に地域の活性化や防災機能とありますが、最近子ども達がキャッチボールの出来る場所が余りありません。子ども達の心のフォローを第一に考えているのであれば、そういった視点も加えていく必要がありますし、そういった意見が反映されないのであれば、この協議会を開催する意味が無いと思います。

委員：先日、食事をしていた時に、隣席で若い方の会話が聞こえてきました。最近、他区から引っ越してきた方ようで、小学生の子どもと中学生の子ども2人がおり、中学生の方については、「あの中学校は人数が少ないから」といった会話が聞こえてきました。家に帰ってから調べてみると1年生と2年生がそれぞれ10数人、3年生が40数人と総勢80人弱と小規模な中学校であることが分かりました。中学校の話ですが人数が少ない学校では、部活動を実施するのも大変であるし、色々と支障があるのではないかと感じました。

委員：何故、板橋第九小を閉校しないといった選択肢は加えられないのでしょうか。現在の2年生が30人入学し、希望もありましたが統廃合といった話になってしまいました。協議会の発足前に事務局から、統廃合することについては何も決まっていない、協議会の中で決まるとの説明を受けましたが、板橋第九小が存続する案すら無いことが、非常に残念です。このまま基本的な考え方（事務局案）に決まり、この協議会が終わってしまうのかと思うと非常に情けなく思いますし、非常に残念にも思います。

- 委員：現役の保護者の意見というか、他の方の意見にもありましたが、突然、閉校となることや、子ども達が他校に散り散りに統合されるといったことがないようにお願いします。
- 委員：事務局案を見た時に、やはり A 案がベースになってしまったと残念に思いました。ただ、この基本的な考え方（事務局案）で進むのであれば、統合にあたっての留意事項については、きっちりと守っていただいて、廃校や吸収といった言葉や意識を全くもたないようにしていければと思います。
- 委員：「学校を存続させる」以外で「子どもたちに悲しい思いをさせないために」私たちは何ができるのだろうか？と、ずっと考えていましたが、残念ながら、いまだに明確な答えは出せていません...でしたらせめて、「学校がなくなっちゃうの？」と子どもに聞かれた保護者が「学校がなくなるんじゃない、学校が新しくなるんだよ」と言えるような、前向きな答えができる配慮をしていただければと思います。
- 委員：板橋第九小の保護者への説明会の中で、新しい学校になじめなかった場合はどうするのかといった意見がありましたが、そういった意見が出てしまうのは、統合への不安があるからだと思います。新しい学校では、こんな楽しい事があるといった、もっと明るくプラスに考えられるような具体的な事例を伝えていく必要があると思います。
- 委員：子ども達は順応性もありますし、無限の可能性があるので、前回校長先生も話していましたが、板橋第一小としては、分け隔てなく同じ板橋の子どもとして接していきたいと思います。
- 委員：A 案の方向で話が進んでいるようですが、私の立場でどのような発言をすれば良いのか正直戸惑っております。できれば、今後のスケジュールについてある程度予めお知らせをしていただいた方が、発展的な意見も言いやすく協議が進めやすいとも思います。
- 委員：前回の意見交換の中で、アンケートとの意見もありましたが、アンケートの設問によっては、議論が振り出しに戻ってしまうところもあるので、設問については、慎重に設定する必要があると思います。在校生や保護者、入学予定者の不安を早急に解決していかなければならないと思います。
- 委員：そもそも、この協議会は板橋第九小の子ども達が少ないことで開催されたもので、早く解決するためには、すでに改築を終えたばかりの板橋第一小が、距離が近く、校舎も設備も立派で、教室もかなり余裕があるので、今回、板橋第一小も加えた 3 校での協議会は自然な流れだと思います。
- 委員：現在は、通学している学校は違っていても板橋の子どもということには変わりませんで、統合によって新たに中根橋小通学区域になる子ども達、又、中根橋小を希望してくれる子ども達も同じ様に接していきたいと思います。通学区域についてですが、幼稚園・保育園の友達関係も大切だと思うので、通学区域の学校に限定してしまうことについては抵抗があります。
- 委員：中根橋小がどのような学校なのか、学校公開や交流会など学校長と PTA が協力して実施して、中根橋小を選択した子ども達が、不安が無いような形で来ていただければと思います。統合に向けての留意事項の中で、入学する前の子ども達についても一定の配慮をするとありますが、これから入学する子ども達は、何もわからないで不安が強いと思いますので、しっかりと対応していく必要があると思います。
- 委員：板橋第九小はデメリットが当てはまらないといった意見を沢山いただき一定の評価をしていただいたと思っています。そのような中に出てきた基本的な考え方（事務局案）ですので、更に板橋第九小を良くしていくための協議であったり、結論であってほしいと思います。学校としても何が必要なのか何をしていく必要があるのか考えていく必要があり、子どもたちにも伝えていきます。そうすることが、板橋第九小を選んでいただいた子ども達への思いに応える事になると思います。
- 委員：保護者は、他の学校のことを知らないので不安に感じているのだと思います。先ほども子ども達は、順応性が高いとの話がありましたが、保護者に対して、どのような良いことがあるのか建設的なことを分り易く伝えて計画的に進めていく必要があると思います。今回の基本的な考え方（事務局案）にも交流事業等があるので、学校として一歩進めて何ができるか考えていきたいと思っています。

委員：学校生活の中で、何が大切かという、やはり校舎の立派さや運動場の広さではなく、いかに友達と熱い毎日を過ごすことかだと思います。であれば、友達は1人よりは10人、50人と多くの友達と熱い毎日を過ごす方が良いのではないのでしょうか。板橋第一小の校長として板橋第一小に入学される子ども達に対して、一日でも友達との熱い毎日が過ごせるように、板橋第一小として万全の態勢を作っていきたいと思います。

委員：事務局次長です。板橋区では、20年以上通学区域の弾力化を行ってきました。板橋区の通学区域の中には、目の前に学校があるのに通学区域が異なる場合もあります。今、通学区域の厳格化を行うことは、保護者の方々の理解を得ることは難しいと考えております。この協議会で出された意見や区議会の中で出された意見をくみ取っていきたくて考えております。この協議会での協議内容ですが、交流事業のことも考えると年内には一定の結論を出していく必要があると思いますので、事務局の方で具体的な案を作成して示していきたいと思います。

会長：私が小学生の時に、国鉄の官舎が出来て沢山の子どもがおりましたので、新たな学校を建設する事になり、稲荷台小が出来ました。転校してきた子どもは、最初の一週間程度は、一人でしょんぼりしていることもありましたが、しばらくすれば、馴染んでくるので、分け隔てなく遊んでいた事を記憶しています。子ども達は、順応性が高いので、親からすると色々な事が心配になりますが、そんなに心配をすることはしないのかなとも思います。私が卒業した板橋第三小ですが、1年生が6人となってしまい、稲荷台小と統合する事になりました。当時設置された審議会の中に委員として参加していましたが、私が統廃合や閉校といった言葉を使っていたところ、審議会の先生から、これは、統廃合や閉校といった表現ではなく、この地域には、学校が多すぎるので、学校の適正な配置を進めるといった考え方でお願いしたいと言われた事を覚えています。吸収されるとか統合されるのではなく、この地域にどの程度の学校数が一番良いのか適正な配置といった視点で考えていく必要があるのではないかと思います。

教育長：今年の7月から教育長となりましたが、その職責の重さについて改めて強く感じております。改めて魅力ある学校とは何なのかを考えていく必要があり、子ども達に良し、保護者にとって良し、地域にとって良しと、三方が良しといったことが一番かもしれませんが、今回は厳しい面もあります。しかし、子ども達の教育環境を最良としていくことは、実現していかなければならないと感じております。本日の協議会の内容を教育委員に伝え、教育委員会として板橋の子ども達にとっての魅力ある学校づくりをしていきたいと思っております。全ての方が、100%賛成という方向性を導き出すことは大変難しいと考えておりますが、教育委員会としては、子どもたちにとって最良の教育環境を整備することを第一に考えていかなければならないと考えております。本日も子どもたちの心のケアについて大切に考えてほしいというご意見を多数いただいております。私も子ども達にとって最良の教育環境を整えていくように考えていきたいと思っております。今までの、それぞれの学校への支援、愛着、思いを十分に考慮したうえで、一定の方向性について、教育委員会が責任を持ってお示ししていきたいと考えております。

次回予定

- ・平成27年10月26日(月)午後6時00分から午後7時30分まで
- ・場所：板橋第一小いちょうホール ※月に1回程度開催する予定です。
- ・議題：基本的な考え方(事務局案)の集約等

※協議会の会則・協議会ニュース、次回の日程等は、区ホームページからご覧いただけます。また、ご意見やご要望がある方は、下記までお願いいたします。

発行元 板橋区教育委員会事務局 新しい学校づくり課 学校配置調整第二グループ
電話 3579-2090 FAX 3579-4214 E-mail ky-tekisei2@city.itabashi.tokyo.jp
ホームページ http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c_kurashi/067/067580.html